

栃木市文化財保存活用地域計画（素案）に関するパブリックコメントの結果について

- 1 実施期間 令和7年12月25日（木）～令和8年1月23日（金）
- 2 意見の提出方法 書面で直接、郵送、ファクシミリ又は電子メール
- 3 意見の提出数 36件（12名）

※パブリックコメントの結果表を作成するにあたり、いただきましたご意見を項目ごとに整理し、表中のページ番号につきましては、栃木市文化財保存活用地域計画（素案）に記載のあるページ番号としています。

No.	質問・意見の概要	市の考え方
1	<p>【第1章 栃木市の概要】について</p> <p>3. 歴史的背景(6)鎌倉戦国時代 (素案 29 ページ)</p> <p>・「武士団が勢力争いをするようになります。」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p> <p>・「改易や領地没収で断絶や没落をたどりました。」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p> <p>・「小田原征伐後」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p>	<p>3. 歴史的背景(6)鎌倉～戦国時代 (案 29 ページ)</p> <p>積極的に戦が行われていた印象を招きかねないため、「武士団同士で対立が生じていきました。」に修正いたします。</p> <p>すべての市域の武士団が断絶、没落したかのような誤解を与えないよう、当該記述は削除いたします。</p> <p>最新の研究結果を踏まえ、「小田原征伐後」と断定できないことから、「戦国時代末期」に修正いたします。</p>
2	<p>【第3章 栃木市の歴史文化の特性】について</p> <p>1. 歴史文化の特性 「小倉川」の表記について (素案 42 ページ)</p> <p>小倉川は思川と表記すべきではないか。</p>	<p>(案 43 ページ)</p> <p>当該箇所は、栃木市の現代の立地についての記述であることから、現在の河川行政上の公式名称である「思川」で統一いたします。</p>
3	<p>【第3章 栃木市の歴史文化の特性】について</p> <p>1. 歴史文化の特性 (3)中世武士団の交差する地 (素案 43 ページ)</p> <p>・「小山氏一族」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p> <p>・「生き残ります」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p> <p>・「皆川氏が本市域を統一して治めたわけではなく」について、皆川氏が本市域の大部</p>	<p>1. 歴史文化の特性 (3)中世武士団の勢力争いの地と現代に引き継がれたまち (案 44 ページ)</p> <p>小山氏一族について、近年の研究では一族の影響はなくなっていたとの見方もあることから、「小山氏一族」は削除いたします。</p> <p>物語的表記の印象を与えかねない「生き残ります」は、削除いたします。</p> <p>いただいたご意見、最新の研究の動向を踏まえ、当該部分を「中世を通して本市</p>

	<p>分を治めていた説もあり、より適切な表現に改めるべきではないか。</p> <p>・「中世武士団の勢力争いの地であったことを今に伝えています。」について、より適切な表現に改めるべきではないか。</p>	<p>全域を統一した政権は成立しませんでした。当時有力な武士団の一つであった皆川氏も全域をくまなく領有するには至らず、複数の武士団が拮抗していました。」に改めるとともに、同頁の『①現代に引き継がれる中世のまち』の中で「その中で皆川氏は戦国末期には現在の栃木市と同等の支配領域を有する勢力に成長しました。」という表現を加えます。</p> <p>積極的に戦が行われていた印象を招きかねない当該記述を「中世の武士団の活動と勢力争いの歴史が、現代のまちの構造や景観の中に受け継がれています。」に修正いたします。</p>
4	<p>【第8章 関連文化財群】について (素案 62 ページ)</p> <p>古代と近世を取り扱っているが、中世・戦国期については取り扱わないのか。</p>	<p>(案 68 ページ)</p> <p>関連文化財群は、本編とは別に歴史文化の特性を考慮し、任意で設定することができるものです。</p> <p>設定にあたっては、地域計画協議会において、本市の古代、中世、近世、現代の4つの歴史文化の特性を踏まえ、審議した結果、4つのうちから古代と近世に絞ることとしたところであります。</p> <p>ついては、計画は原案のとおりとし、今後、中世と現代を設定するかどうかについては、計画見直し時期に、改めて検討いたします。</p>
5	<p>【資料 (2) 未指定文化財一覧】について (素案 77 ページ)</p> <p>カトリック栃木教会はなぜ選ばれていないのか。</p>	<p>(案 88 ページ)</p> <p>当建造物は、現在、歴史的価値が確認されていないため、一覧には掲載されておられません。</p> <p>今後、調査・研究を進め、価値が明らかになった時点で追加を検討いたします。</p>

6	<p>【第7章「栃木市の宝」の保存活用に関する事業】について(素案52ページ～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併後の栃木市の歴史文化を知ることができる入門書のようなものを作成できないか。 ・市内の資料館の展示を充実させてほしい。また、下野国庁跡資料館には、しもつけ古墳についての資料を展示してほしい。 ・国庁まつりを、より下野国庁に関連付けて実施してほしい。 ・専門職だけでなく、調査ができる一般市民の協力を得ることも必要ではないか。 ・一次資料をデジタル化し、調査・閲覧できる施設が必要ではないか。 ・市、市民団体が積極的に各自治会に歴史・文化を学べる講座を提供するべきである。 ・官民間わず適切な人を配置することが重要である。 ・新たな組織を作り、文化財を守る体制を作ってはどうか。 ・私の参加する『とちぎふるさと子ども観光大使』と『伝統文化教室』等は有益な事業と考えるが、参加者減、運営者の高齢化等不安材料がある。 ・古文書館を設立してほしい。 ・公開・活用施設一覧について、小平浪平生家を追加するとよいと思う。 	<p>(案58ページ～)</p> <p>いただいたご意見については、今後の政策等の参考にさせていただきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業を実施するための財源を、確保できるのか。 	<p>重点事業を中心に、活用できる補助制度等は積極的に活用しながら、事業推進を図ってまいります。</p>

※重複する意見については集約、及び一部省略等を行っております。